放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年　2月26日　　事業所名：運動学習支援教室ココノバ黒石校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	運動スペースが広い為様々な運動が行える。	活動エリアと休み時間に過ごすエリアを区別しているため人数が多い際に狭く感じてしまうことがある。休み時間に過ごすエリアを拡大したり、工夫、改善していく必要がある。
	2	職員の配置数は適切である	3	2	役割を明確にしチームワークを大切に業務出来ている。	子育て中の職員が多く休みが重なる場合にも多い為、パート職員の配置をすることで休みが生じた際にもカバーできる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	玄関に段差はなく広い為靴脱ぎもスムーズで安全である。	保護者への周知がされていない為、特徴やバリアフリーについてはお知らせしていく必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	長期休業中の行事計画に保護者の希望を含め計画している。	寄せられた意見を前向きな提案ととらえ、改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	職員間で周知し改善できるよう意見を出し合っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	職員間で周知し改善できるよう意見を出し合っている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	市内のデイサービスが集まり定期的な勉強会や意見交流会を実施している。	業務時間内だけではなかなか研修の時間の確保が難しい。家庭のある職員は業務終了後の時間帯は研修参加が困難であるため子連れ可能な研修会や勉強会があるとより前向きに参加、開催ができるのではないかと思われるため改善していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	定期的なモニタリングで保護者の相談事や要望を聞き職員間で共有することでより良いサービスに生かしている。	作成者の主観とならないよう、日頃行っているフィードバックや記録を的確に記載する意識を大切にしていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	療育内容、テーマを設定している。	専門的アプローチができるよう、一人ひとりの職員が分野ごとに勉強が必要である為職員同士意見交換や勉強会の開催を行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	日々の振り返りの中で改善点について話し合いができている。	必要な支援やケアを考えたうえでどんな支援やアプローチが必要なのかを見極める視点や感覚を身に着けるためにも情報収集や提案、事例検討などを職員間で行っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	事前のスケジュール確認を徹底し職員間で連携している。	レクリエーションにて外出する際には臨機応変な対応や判断も生じる為、同行した職員全員が即座に周知できるように事前に想定した対応等確認しておくことが必要。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	朝礼にて申し送り、フィードバックを必ずしていく。	個人の支援に関する話題から反れてしまい時間がかかつことも多い為進行について職員同士で確認し、時間がかかりすぎないことも懸念していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	トラブルや事故、怪我等に関して職員同士把握できるよう共有を徹底している。	シフト制であり退勤時間が皆異なる日には、共有しきれない場合もある為、漏れることなく全職員が情報共有できるよう記録簿を使用したり翌日の伝達を必須として対策する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	日々の記録が重要である根拠を職員に伝え、それぞれが同じ意識となり徹底した体制ができている。	支援の内容や療育内容について詳しく記載されていないことがあると、適していたのか適していなかったのか判断できないこともあるため、記録の仕方について教えていく体制を強化していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	偏った視点ではなく職員間で意見交換、共有しながら判断できている。	保護者自身の理解が低いことも多い為、計画書の必要性や意味も理解していただけるようなアプローチも心がけモニタリングの実施をしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	0	ガイドラインに沿った支援やケアを心がけている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年　2月26日　　事業所名：運動学習支援教室ココノバ黒石校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	教育現場においても、経験、知識や理解があり、一保護者としても障害や成長に関して通じている者が携わっている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	0	保護者が忘れている連絡や変更等についても学校側から直接連絡をいただける関係性が築けている。	地域が運営する学童クラブでは放課後等デイサービスに対し送迎の時間や決まりについて厳しく判断する場合も多い為、事前の確認や変更連絡などはまめに行い相違のないようにしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	0	保護者から都度情報を頂き体制を整えている。	保護者からの情報だけでは不足していて、詳しい詳細等を把握する必要がある場合には保護者に許可を得た上で連絡できるような体制が必要である為その旨伝えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0	相談支援員や事業所からの情報提供があった際には電話や対面により情報共有している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		地域の他事業所と行う勉強会や、市で行う研修会などへ積極的に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		児童クラブを利用している使用者様も多い為、今後は長期休暇や祝日などを活用し児童クラブとの交流する機会を設ける行事計画をし、事業所に招き一緒に活動する機会を作っていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	3		研修会などの情報収集を行い積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	学校からの情報も共有させていただき、状況や課題について共通理解を持って支援に繋げている。	特定の職員と保護者のやりとりだけで成立するのではなく、事業所の職員一人ひとりが保護者と状況や課題について話ができる関係性、知識を身につけられるよう職員教育に力を入れていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	3	2		ペアレントトレーニングに対する正しい知識を習得するための研修会に参加しスキルを身につけ職員間でも共有し実施できるようにしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	不明点などが生じた際にも丁寧に説明することを心崖ている。	サービスのしくみやシステムに関しても当初は不安を抱えている保護者も多い為、まずは安心した気持ちで説明を聞けるように配慮し、そのうえで納得し理解した上で契約ができるよう配慮している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	保護者が話をしやすい雰囲気作り、傾聴する姿勢を職員一同心がけている。	特定の職員と保護者のやりとりだけで成立するのではなく、事業所の職員一人ひとりが保護者と状況や課題について話ができる関係性、知識を身につけられるよう職員教育に力を入れていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		新年度からは休日（土曜、日曜、祝日）を利用し保護者も参加できる親子レクリエーションを企画し、保護者同士の交流する機会を設けていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1		苦情について事前の説明だけでは不十分だったことが明らかになったため、定期的に案内を出すこと、周知のためにもどのような体制であるのかを明確化し保護者に再度伝えていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	毎月発行し児童の様子を保護者様がわかりやすいように写真や文章で発信している。	活動の周知が不十分であったため、活動内容をまとめた書類や通信、掲示物等で発信をより強化していく。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	知りえた情報は口外しないよう職員同士徹底し気を付けている。	書類や連絡帳等個人が特定される物の配布に関しては、入れ間違いや取り違い等が生じないよう職員数人がチェックする体制をとり、徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		町内会や市に事業所の行事案内を出し、参加してもらえるような働きかけを今後積極的に行っていく。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年　2月26日　　事業所名：運動学習支援教室ココノバ黒石校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	毎月行う安全衛生会議にて定期的に触れている。	職員内ではできているが、保護者には周知できていないので令和6年度初めに書類用意し周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	避難訓練実地の報告をお便りにて保護者に伝えている。	不審者に対する訓練の実施等も定期的に行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	研修会へ参加し職員に共有している。	メンタルヘルスチェックやストレスチェックを定期的に行うことで、自身の状況を把握すること、悩みやストレスを抱え込まないようなケア、対応ができる体制を整え虐待防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	職員間で共有し対応している。	体調によって変化があったり、これまでとは異なる症状があった際等、日頃から細やかな情報でもいただくことで共有し細心の注意を払い防止に努めている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	その日のうちに共有し改善について話し合っている。	法人内の会議等においても事故報告に対した再発防止のアドバイスや意見交換等する機会を設けることにより、様々な視点から再発防止についての考えを学び生かしていける。